

町並み月報

■平成20年10月24日（第51号）

■発行責任者 澤口輝禪

西山調査官(文化庁)を囲んでの 意見交換会

熊川児童館にて

10月14日西山調査官が熊川宿に視察でお越しになり、その夜の懇談会に小浜市の職員さん4名と小浜西組町並み協議会から9名が参加しました。熊川区の岩本実区長さん、若狭熊川宿まちづくり特別委員会の河合健一会長さんの挨拶から始まりました。河合会長さんは「ようやくここまでたどりつきました。これからは小浜西組さんと一緒にやっていきましょう。」と嬉しいお言葉をいただきました。当協議会の澤口会長も「6月に選定を受けたばかりで何もわかりません。よろしくご指導ください。」と挨拶しました。



挨拶される河合会長

続いて西山調査官のお話をお聞きしました。「熊川宿へ訪れるのは4回目です。整備がどんどん進んでいるし、輝きを増していると感じます。」小浜西組町並み協議会に対しては選定までの苦労や取り組みに労いの言葉をいただきました。「これからも苦労もありますが、楽しいこともあります。熊川の方にも相談したり失敗談も聞いたりしながら進めていって下さい。」と話されました。



西山調査官の講話(中央)

そのあと参加者はグループに分かれて、熊川宿の方々から伝建地区になってからのこと、熊川いっぴく時代村の話まで直接お聞きすることができて楽しい時間を過ごすことができました。

町並みの心

小浜鹿島 小堂 勉

もう十数年前のことだったと思うが、調査員の方が私の家を調査に回られた。「何か？何の調査なのかな？」と不思議に思ったものだ。今から思うと、これが町並みの始まりだった。あの時から何も詳しいことを知らされず時は流れた。そうこうしているうちに息子が「子供も大きくなったので三階建にしたい」と言い出した。私は住んでいた家を数百万円かけて修理もし、水洗化にしたので反対であった。とても新築なんて全く思いもよらなかったが息子夫婦、子供二人と同居することになればそればかり言っておれない。折れざるを得なかった。

昔の家は養父が五十年前の伊勢湾台風にあい、身一つになり町へ出て古家を購入し、改築して五十年も経っていなかったなのでその必要はなかった。「父が苦勞して手に入れ、父の魂がこもったこの家だけは守り抜きたい」と心に誓っていた。今以前の家のことを思うと「ここはこうだった、あそこはこうだった」と懐かしい思いがこみ上げてくる。庭先の木々が青々と勢いよく育ち、松の木も立派にそびえていたあの家を懐かしむ思いが町並みの心だとやっとわかってきた気がする。近くに町並みに沿った家々が新築され道路も拡張されて見事な景観を呈してきつつある。あれが町並みの景観だ。すばらしいの一語に尽きる。瓦あり、壁ありの家が家らしいと思う。

父は台風で全てを失った。大きな家を新築したばかりであったが、蔵も材木も共に流され借金もしたらしい。しかし、父はそんなこともろともせず町へ出て、以前と同じく材木商に励んだ。その苦勞を知るのは二代目の私だけになってしまった。

私は前の家の方が住みよいと思えてならぬ。これが町並みの心だと思う。祭りに参加する人数も年々少なくなってきた。運営も困難との声も聞かれる。私の若い頃は人が多く祭参加の声もかからぬほどだった。この現状打開のためにも、市活性化のためにも、市も市民も共に英知を出し合い、力を合わせていかねばならない時期にきている。



小浜西組町並み協議会 第3回 役員会報告



日 時：平成20年9月29日（月）午後7時30分～午後9時

場 所：町並み保存資料館 1階

出席者：役員20名のうち、出席12名、委任状6名により、会が成立

1、会長挨拶の後、議長に石野副会長が就き、議事進行

2、市からの報告

① 指定文化財活用推進補助金の確定について

県からの補助金制度があり、今年度の町並み協議会事業のうち、申請のあった歴史街道絵図改訂と町並み保存資料館の看板新設に対し、2事業19万円のうち2分の1の9万5千円の補助金交付が確定した。

② 電線の地中化について

市では県の第6期計画に三丁町と丹後街道沿い（大原・浅間・鹿島）の街路整備を計画に上げている。

先週、関西電力京都支店の方に現地を視察していただいた。視察した状況では1つの工法ではなく、完全地中化とソフト地中化の両方といった、いくつもの工法を用いて実施する方が良いとのことであった。いずれにしてもさまざまな問題が生ずるので、電線地中化に向けてなかなか地元をまとめるのは難しいが地元の同意が不可欠であるとのことであった。

3、議 題

(1) 重伝建選定記念イベントの件

担当の石田副会長からの報告

日時：12月6日(土)午後2時～4時

講師 現地視察

午後7時～8時

基調講演

午後8時～9時30分

ワークショップ（班別討論）

午後9時30分～10時

懇親会

場所：鹿島 福祉センター 2階

講師：阪南大学 吉兼秀夫教授 テーマ「重伝建選定後のまちづくりの展望と課題」

主催：小浜西組町並み協議会 共催：伸び行く西部をつくる会

以上のような案で準備を進めている。承認された。

石田副会長にイベントの責任者になってもらうことを承認。

(2) のぼり旗の件

野村事務局長からの報告

「祝 小浜西組重要伝統的建造物群保存地区選定」ののぼり旗20本製作済み。10月中

に、各区の案内板などに立てたい。数本余るので、希望者に実費で購入してもらいたい。

(3) 歴史街道絵図改定の件

石野副会長からの報告

県の補助金7万円が確定したので、5,000部印刷。

(4) 「住宅用火災警報器・消火器の無償配布」の申請の件

澤口会長からの報告

- ・(社)全国消防機器協会より提供される。秋季火災予防運動(11月)の一環として。
- ・1地区で火災警報器100個、消火器25本の無償配布が受けられる。(全国で20箇所)
- ・現在、申請中である。

(5) 会計中間報告の件

大和会計からの報告(省略)

(6) 文化庁職員及び熊川宿まちづくり協議会委員との意見交換会の件

野村事務局長からの報告

(7) 町並み保存資料館での行事・企画展の件

町並み保存資料館に地元の人がかもっと足を運んでもらうように、工夫する必要がある。そのために定期的に企画を考えて、展示会や行事を組むようにしたい。

(8) 市政懇談会での要望事項の件

野村事務局長からの説明

来る11月5日、市政懇談会が開かれるので、当協議会からも要望を出したい。

(9) 各区での町並み協議会委員会の開催の件

澤口会長からの提案

各区で理事が呼びかけて、協議会委員の会合を開いてもらいたい。

議題として

- ・修理・修景についての疑問点やわからないこと。
- ・街路整備(道路舗装のグレードアップ、融雪装置、電線の地中化、防火体制の充実など)で、行政に要望したいこと。
- ・災害時における、二方向以上の避難口が確保されているか。

などの点について話し合いをして、役員会で報告してもらいたい。

(10) その他

- ・「建築の規制緩和案はどうなっているか」との質問があり、市より「現在国土交通省と交渉中だが難航している」との回答があった。
- ・澤口会長より、関係各種団体との交流を図る意味で、まず「若狭の語り部」との話し合いの会を持ちたいとの提案があった。

4、閉会の辞 石田副会長

小浜西組町並み協議会

連絡先：浅間1 (澤口 輝禅) TEL53-2327
